



ルワンダの伝統的なダンスのショー（解説：裏表紙）

中学校 社会科のしおり

2012年度

2

(9月)

学期号

帝国書院



①



②



③



④

(写真：帝国書院 2011年10月撮影)

表紙写真解説

千の丘の国 ～ルワンダの今～
帝国書院取材班

ルワンダは「千の丘の国」とよばれており、国土に平坦な土地はほとんどない。自然が豊かで、南西部のニュングウェの森はナイル川の源流となっている。西側には大地溝帯の谷があり、北西部には4000m前後の円錐状の火山(表紙写真)が点在する。首都キガリは約1500mの高原に位置し、赤道近くにもかかわらず年平均気温は20℃前後と過ごしやすい。1962年にベルギーから独立し、今年で独立50周年を迎えた。

ルワンダといえば1994年に発生した民族紛争による虐殺事件の印象が強い。四国の1.5倍ほどの面積の国で約70日間に80万もの人が殺される混乱が発生した。内戦終了後、その反省から身分証明証の民族を区別する欄を廃止するなど、国民の融和を進めてきた。半世紀前の独立から虐殺事件までの間に国外に逃れた人々はディアスポラとよばれるが、治安が安定した今では、国外で知識や技術を身につけた人々が帰国するとともに巨額の投資を行うようになり、復興の原動力となっている。

主産業は農業であり、コーヒー、茶、バナナ、豆類、じゃがいも、除虫菊などが栽培されている(写真①)。コーヒーや紅茶は手作業での小規模栽培だが、国を挙げて品質管理を徹底することによって、今では世界的にも評価が高い。

また、近年は観光業にも力を入れている。伝統的なダンスのショー(表紙写真)のほか、最も人気があるのはマウンテンゴリラを見学するトレッキングで、2時間は

ど山を登るとマウンテンゴリラの群れに出会えた(写真②)。7m以内に近づかないなどのルールはあるが、ゴリラの方から近づいてくるほど人間に対して警戒心がない。また、毎年産まれたゴリラの名前をつけるイベントもあり、これらの収益などによりゴリラ基金が設立され、小学校の建設やインフラ整備など、地元民の生活改善にもつながっている。

そのほか、国内に光ファイバー網を張り巡らせ、インフラの整備や人材の育成を進めて東アフリカのITの中心地を目指している。外国からの投資も増え、「アフリカの奇跡」とよばれるほど、経済成長がめざましい。

首都のキガリには新しいビルが増え、近代化が進んでいる(写真③)。町の商店にはモノがそろい、携帯電話の普及も一人一台に迫る勢いだ。また、街にはゴミはなく、清潔に保たれ、至る所で掃除をする人たちの姿を見かけた。

現在のルワンダの国会議員は半数以上が女性で占められている。これは、虐殺によって多くの男性が殺されたためもあるが、憲法で女性議員数が30%を超えるよう定められており、女性議員の割合が世界一高い国になった。官公庁だけでなく、どこにいても働く女性の姿を見かけることができた(写真④)。

過去の悲劇を克服して前へ進む小さな国の挑戦にこれからも注目していきたい。